
私の絶望

若菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の絶望

【コード】

N7307C

【作者名】

若菜

【あらすじ】

君の指さした先には何も見えなかった。

ここは暗やみで、何も見えないから不安でしょう

と問うと、だから安心すると返され、

戸惑いながら見上げた空は星一つなく、

横を見てもお互いの姿すら確認できないので、

ここがどこなのか忘れてしまいそうになって声を洩らすと、

夕日がきれいだねと言われて目を見開き、

どこまでも続く暗やみを見つめると、

頭に浮かぶのは過去に見た美しい風景で、

たまらない思いで目を閉じると、

まぶたの裏に映る風景が鮮やかで、

自分が今日を開けているのかそれとも閉じているのかわからなくな
って、

そのまま見上げれば君がいて、

どうして自分はこの美しい風景に目を閉じていたのかと後悔し、

それよりも目の前の夕日と君の姿にくもった心を洗われ、

夕日に照らされる君に導かれ後ずさり明日のための一歩を踏み出
すと、

この場所の高さが恐ろしくて、君の手を強く握り、

屋上の端から中央の扉へ向かう道はあたたかく背に当たる陽がまぶ
しく心強くて、

部屋に戻り君の入れた紅茶を口にし、

窓の向こうの紅い景色に見とれているとありがとつと言われ、

夢見心地に見返すと、
涙を流す君がいて、
心苦しくなりながら嬉しくもあり、
空になった食器を置き荷物を持って部屋を出ると、
開かれたままの風がさわやかで、

足は軽く、
病院を抜け出し、
行った先は海で、
波の音に落ち着き、
沈んだ太陽にさみしくなり、
うつむいた私に声をかけ、
君が指さす空には月はなく、
ただ星があるだけで、

それがあまりに美しくて、
足を踏み出し感じる海水はどこかあたたかく、
死に汚すのがはばかられ、
振り返ると微笑む君は手をさしのべ、
家に帰ろうと言ってくれて、

着いた先は住み慣れた部屋で、
不思議と、
名前も知らない君の姿が浮かんでは消え、
立ち止まるとやさしくうながされ、

スリッパは足になじみ、
ソファはゆるやかにくぼみ、
カーテンは静かに私の好きな色でゆれ、

私の手には同じ色の指輪がひかり、
おそろいの食器を他人行儀に見て、

君の手がふるえ、

どうにもならなくて、

舌に合う料理は君のお手製で、

謝れば辛そうで、

ありがとうは言えなくて、

ただ君の姿が部屋に馴染むのが奇妙で、

私の部屋はやけに広く、

君が消えないことを願い、

そう言つと辛そうにされ、

当たり前だと返され、

なぜだが申し訳なく胸に詰まる思いがして顔をゆがませると、

あわてた君に手を握られ励まされ情けなく、

君の力になれないことが悔しく、

そう思うのがなぜか思い出せないのが苛立たしく、

夜中泣き通し、

朝は疲れ、

目を閉じ耳を澄ますと、

君との思い出の曲で、

古いカセットテープがすりきれる頃には数日がたち、

私はようやく私の記憶のないことを知り、

君の正体を知り、

疲れ眠る君に気づかれぬように部屋を出て、

通いなれた花屋に咲く花を買い部屋に戻ると、
真っ青な君がいて、
笑顔を向けると顔がほころび、
涙をながして喜んで、
ようやく君の名を呼んで、
渡した花は君の好きな花言葉。

“私を忘れないで下さい”

まさか本当になるなんてと、
守れなかった私を許してと、
呟く私は私に還り、

絶望は幻だったと口にした。

(後書き)

まさかの失敗策

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7307c/>

私の絶望

2011年1月15日21時14分発行